

国大化学会第2期を向かえて

国大化学会会長 米屋 勝利（昭和37年電化卒）

早いもので、国大化学会が発足して2年が経過し第2期を迎えました。ふり返れば、10年以上の長きにわたって横浜応化会、横浜電化材化会、横国化学会の3同窓会の統合化に向けた熱心な討議を経て、やっと平成19年4月1日に国大化学会をスタートさせることができました。会員約7,000人を要する大きな同窓会になったわけですが、横浜国大の卒業生が約4万人であることを考えると、まだ全体の約1/6ということになります。このことは、この統合も将来の物質工学科、工学部の一元化につながる第一歩であると私自身は認識しております。

過去2年間は初代会長樋口修一郎氏のリーダーシップのもと、組織体制固め、同窓会会則の整備、活動方針の決定、具体的な活動計画の策定と実行、重要課題の抽出と審議などを経て順調に立ち上がってきました。しかし、創成期が2年というのはあまりにも短い。私の任期の2年間もまだ創成期であることには変わらないとの認識に立って、樋口前会長が示された基本方針と活動内容を継承し発展させることが務めであると考えております。同窓会のような任意団体では、最初の数年間に活動方針と組織体制を固め、会員の意見を活動に反映させるための仕組みを構築することが大事であると思います。そのため、私の役割は樋口会長時代に示された諸課題を一つ一つ実行して、大学や学生を支援するとともに7,000人の大所帯が心の通った集団に発展できるよう努力してゆきたいと考えております。ご存じの通り、国大化学会の発足に当たって教職員の方々にも新たに正会員として同窓会に加わっていただきました。これは全く新しい試みでしたが、このことが新しい同窓会の画期的な前進に繋がるものと期待しております。

さて、国大化学会はその活動を実行するために、会長の下に、企画G、会費納入促進G、会誌・名簿G、総会・懇親会G、ホームページG、庶務・会計G、教育研究支援基金運用Gからなる7つのグループを設置しております。具体的な会の運営や活動に関する審議は、会長、副会長、各グループ役員、監査役で構成される役員会議で行われますが、重要事項に関しては当然総会の承認或いは議決を経て実行



に移されます。第2期に入って運営もかなり軌道に乗ってきたと思われしますので、これからは、できるだけグループリーダーの主体性を重視して意志決定が迅速に行われるように工夫していきたいと考えております。樋口前会長の提案によって、今年から必要に応じてグループ内にワーキンググループ(WG)を設置することが可能になりました。このことも活動の活性化に繋がるものと期待しております。

私はこれからの任期2年間、これまで述べてきた姿勢で一つ一つを実行に移すよう努力して参りますが、それを実現するための行動目標を「国大化学会メンバー間の会員相互の交流とネットワークの構築」とし、そのための具体的な施策とお願いを以下に述べさせていただきます。

会員間の相互交流や情報伝達の媒体として最も重要なのが、会誌（国大化学会会誌）です。これに関しては、関係者の熱意と努力によって第1号から編集企画、内容、体裁の3拍子が整った会誌が発行され、広報としての役割を果たしつつあると私は評価しております。年2回皆様の手元に送られているこの会誌は同窓会員の相互交流のためには不可欠な媒体であります。是非とも目を通していただき、ご意見や日常生活の有様などを投稿して頂くことを切に希望します。

もう一つの交流媒体であるホームページ(HP)に関しては、若干時間はかかりましたが、昨年の後半に開設に漕ぎつけることができました。今年度はこ

のHPをできるだけ使いやすくなるよう工夫すると共に、内容のより一層の充実を図りたいと考えており、新たにメルマガの発行も予定しておりますので、皆様方のお力添えをよろしく申し上げます。

今年は名簿改定の年です。これに関しては、個人情報保護をどのように担保するかが極めて重要且つ困難な課題となっております。ともかく、熟慮し知恵を絞ってできるだけ会員に満足いただける名簿を提供したいと考えております。過日、ある同窓会員から会員間の相互交流や会への求心力は名簿の出来具合で決まる、名簿だけはしっかりしたものにしてほしいとの意見をいただきました。これは一考に値する会員の声であると受取っております。

平成に入って卒業した比較的若い会員の皆さんは、クラス幹事という役をご存じないかもしれません。各クラス幹事は卒業同期の会員を束ねて本部と同期会員とのパイプとしての役割を担っておりますので、この機能を十分に活用すれば、会員の皆さんとの相互交流を円滑化することができると思います。国大化学会が発足した年度の卒業生からクラス幹事制度を導入されました。その結果、平成19年卒と平成20年卒ではクラス幹事が決定しております。いずれにしても、ネットワーク形成の要となるクラス幹事の整備は最も急がれる事業ですので、皆さんからの積極的なご協力・ご支援をお願いします。

以上述べてきました諸課題の進捗状況と必然的に関係してくるのが会費納入の問題です。現時点では納入率は卒業年度によってかなりの差異がありますが、全体では約38%となっております。周知の通り、国大化学会においては、会誌発行、名簿発行、総会開催、各種印刷物の郵送等々が主たる活動となってきましたが、法人化後は、大学への支援の立

場から、後に述べるホームカミングデー(HCD)の開催、大学や学生支援も重要な活動となっております。これらは皆様からいただく会費を貴重な財源として運営されておりますので、このことを十分理解いただき、62%の未納会員中少しでも多くの方が会費納入にご協力くださることを改めてお願いいたします。

同窓会の最大行事である総会は、今年は7月25日(土)に横浜崎陽軒で開催されます。別途案内が出ていると思いますが、少しでも多くの皆さんに出席いただけるよう重ねてご案内申し上げます。また、今年のホームカミングデー(HCD)は11月8日(日)に開催されます。HCDは年々参加者が増加しており、昨年は1000人を越えたと聞いております。今年は横浜国立大学創立60周年記念行事と同時開催になっておりますので、HCDもさらに充実したものになると思います。クラス会との同時開催を企画するか、家族や仲間を誘い合って、より多くの皆さんが参加されることを切に希望します。その他、OBと語る会が春秋2回開講されますし、同窓会からの大学支援(研究、学会参加活動費など)も予定されるなど大学と国大化学会との接点が徐々に広がってきていることをお伝えしておきます。

以上、平成21年4月1日からの会長就任にあたり、同窓会活動としての今後の2年間の目標と具体的な活動に関する思いを述べさせていただきました。読み返すと皆さんへのお願い事ばかりが目立つことを心苦しく感じております。ともかく、これから2年後の平成23年の同窓会のあるべき姿を見据えて努力してゆきたいと思っておりますので、各役員はもとより、クラス幹事・会員各位の皆様にも絶大なるご支援とご教示を賜るようお願い申し上げます。